

# 伊勢国府跡 15

2013年3月

鈴鹿市考古博物館

## 例言

1 本書は、国庫・県費補助事業として鈴鹿市が2012（平成24）年度に実施した市内遺跡発掘調査等事業のうち長者屋敷遺跡（伊勢国府跡）第30次調査の概要をまとめたものである。

2 発掘調査は以下の体制で実施した。

調査主体 鈴鹿市（市長 末松剛子）

調査指導 八賀 晋（三重大学 名誉教授）

伊藤久嗣（鈴鹿市文化財調査会委員）

川越俊一（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 名誉研究員）

金田章裕（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 機構長）

和田勝彦（財団法人 文化財虫害研究所 常務理事）

渡辺 寛（皇學館大学 名誉教授）

文化庁文化財部記念物課

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課

調査担当 鈴鹿市 文化振興部 考古博物館

組織及び構成

鈴鹿市考古博物館長 東口 元

主幹兼埋蔵文化財グループリーダー 新田 剛

埋蔵文化財グループ副主幹 服部真佳

副主査 田部剛士・吉田隆史

事務職員 米川梨香

嘱託 吉田真由美・小川陽子

3 発掘調査を実施した場所及び面積・期間等は以下のとおりである。

〔第30次〕鈴鹿市広瀬町字丸内2612番1 81㎡ 平成24年12月1日～平成25年2月28日

4 現地調査及び本書の編集・執筆は新田が担当した。

5 調査参加者は以下のとおりである。

〔現地調査〕小河清角・勝野春男・野口省三・中川征次・吉岡健次・前川義輝

〔屋内整理〕永戸久美子・加藤利恵・横内江里

6 Fig.1では国土地理院20万分の1地勢図「名古屋」の一部を、Fig.2では国土地理院2万5千分の1地形図「鈴鹿」・「亀山」の一部を使用した。

7 座標は過去の調査との整合性を保つため、日本測地系第VI系を用いている。なお、図中の方位は座標北を示す。

8 検出した遺構には、遺構番号の前に性格を示す記号を付与している。その性格は以下のとおりである。

SD：溝

9 本調査に係る遺物・図面・写真は全て鈴鹿市考古博物館が保管している。

10 調査及び報告書刊行にあたっては上記指導委員の他に、地権者並びに地元各位をはじめ、下記の方々のお世話になりました。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

福宜田佳男・野原宏司・伊藤文彦・石井智大・河北秀実・嶋村明彦・亀山 隆・山口昌直・藤岡直子・伊藤秀治・

三重県埋蔵文化財センター・斎宮歴史博物館・亀山市教育委員会・広瀬町自治会・広瀬町能褒野自治会・西富

田町自治会・中富田町の山自治会・中富田町の町自治会

# 本文目次

|                   |   |          |   |
|-------------------|---|----------|---|
| I 遺跡の位置とこれまでの調査成果 | 1 | IV 調査の経過 | 5 |
| II 調査に至る経緯        | 5 | V 遺構と遺物  | 5 |
| III 基本層序          | 5 | VI まとめ   | 5 |

# 表目次

|            |   |             |    |
|------------|---|-------------|----|
| Tab.1 調査履歴 | 4 | Tab.2 報告書抄録 | 14 |
|------------|---|-------------|----|

# 挿図目次

|                      |   |                            |    |
|----------------------|---|----------------------------|----|
| Fig.1 位置と周辺の遺跡 1:20万 | 1 | Fig.5 方格地割北西部平面図 1:1,000   | 7  |
| Fig.2 位置と周辺の遺跡 1:5万  | 2 | Fig.6 国庁及び関連施設の模式図 1:2,500 | 9  |
| Fig.3 調査区位置図 1:5,000 | 3 | Fig.7 国庁及び関連施設の変遷          | 12 |
| Fig.4 調査区平面図 1:250   | 6 |                            |    |

# 写真図版目次

|   |    |
|---|----|
| Plate 1 1 調査前全景 北東から/2 トレンチ1 南から<br>/3 トレンチ1 北から/4 トレンチ1 北から/5 ト<br>レンチ2 北から/6 トレンチ3 西から/7 トレンチ4<br>東から | 13 |
|---|----|

## 1 遺跡の位置とこれまでの調査成果

長者屋敷遺跡は鈴鹿川の支流である安楽川の左岸に位置する。遺跡をのせる標高約49mの台地は水沢扇状地の中間面に相当<sup>1)</sup>、台地南面に広がる低地との比高差は約20mである。地表面に認められる「黒ボク土」は耕作等人為的に攪乱を被っている場合が大半で、プライマリーな堆積状況を留めることは稀である。

遺跡の大半は鈴鹿市広瀬町に含まれ、一部は鈴鹿市の西に隣接する亀山市能褒野町に及ぶ。鈴鹿市域における当遺跡一帯は農業振興地域であり、水田や茶・サツキ・芝などの畑が広がる。

遺跡の範囲は南北約1300m・東西約700mで、瓦など古代の遺物が散布する範囲は南北約800m・東西600mに限られる<sup>2)</sup>。その瓦散布範囲の南端中央に位置する国庁部分と国庁の北で発見された建物群を合わせた73,940㎡が平成14年3月19日に伊勢国府跡として国の史跡に指定されている。国府関連遺構および遺物の時期は8世紀中頃前後から9世紀初頭までに収まる。

当遺跡を含む鈴鹿川流域には古来東西交通の要衝として多くの遺跡が残され、古代には畿内と東国を結ぶ東海道が通っていたと考えられる。伊勢国内における古代東海道の痕跡は十分明らかにされていないが、延喜式に知られる鈴鹿・河曲・朝明・榎撫の各駅家を經由して尾張

国に至る経路のうち、鈴鹿・河曲の両駅が鈴鹿川流域に位置することは疑いない。史跡伊勢国府跡の西約10kmには鈴鹿園跡が、東北東約7kmには史跡伊勢国分寺跡があり、三者を結ぶ直線的な経路は駅路想定の一つと考えられる。

もう一つの国府推定地である鈴鹿市国府町は史跡伊勢国府跡から南南東へ約3.5kmに位置し、国府町と史跡伊勢国分寺跡を直線的に結んだ中間地点に所在する平田遺跡では側溝芯芯間が9mの道路遺構が両者を直線的に結ぶ角度で検出されている<sup>3)</sup>。

長者屋敷遺跡において初めて調査が行われたのは昭和32年のことである。歴史地理学的な国府研究の一環として鈴鹿市国府町で調査を進めていた藤岡謙二郎らが鈴鹿川・安楽川を挟んだ対岸の当遺跡の存在を知り、調査に及んだものである。国府町に古代伊勢国府の方八町城を想定していた藤岡は当遺跡が初期国府である可能性を示唆しながらも、鈴鹿園との関連から軍団跡である可能性を強調した<sup>4)</sup>。

鈴鹿市では平成4年から学術調査を開始し<sup>5)</sup>、平成5年には国庁跡の調査によって伊勢国府跡であるとの評価が定着した<sup>6)</sup>。国庁の北方においては南野南地区や長塚南西地区において建物群が発見される一方、三重県埋蔵文化財センターによる緊急調査で方格地割の存在が



Fig.1 位置と周辺の遺跡 1:20万

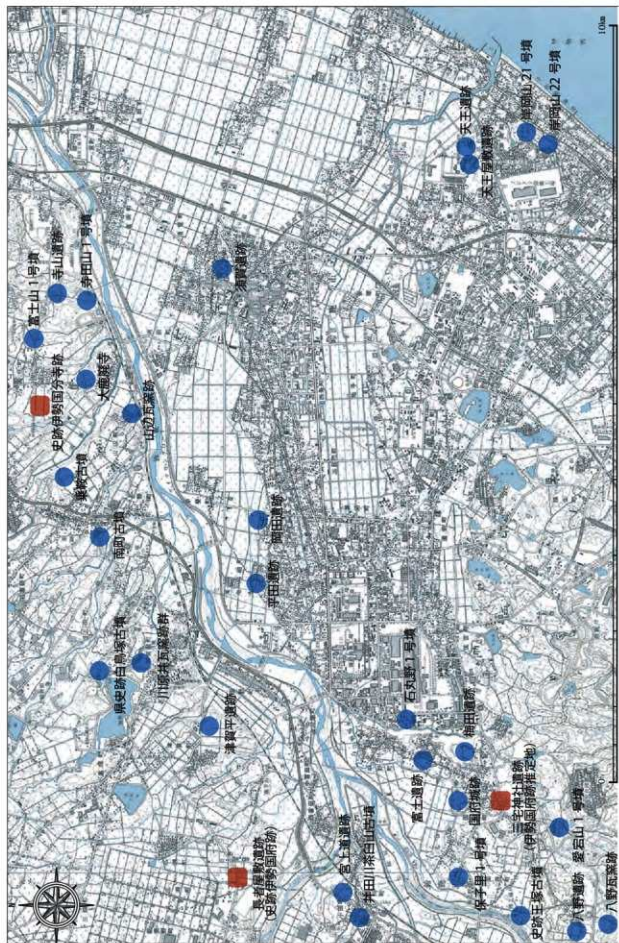


Fig.2 位置と周辺の遺跡 1:5万

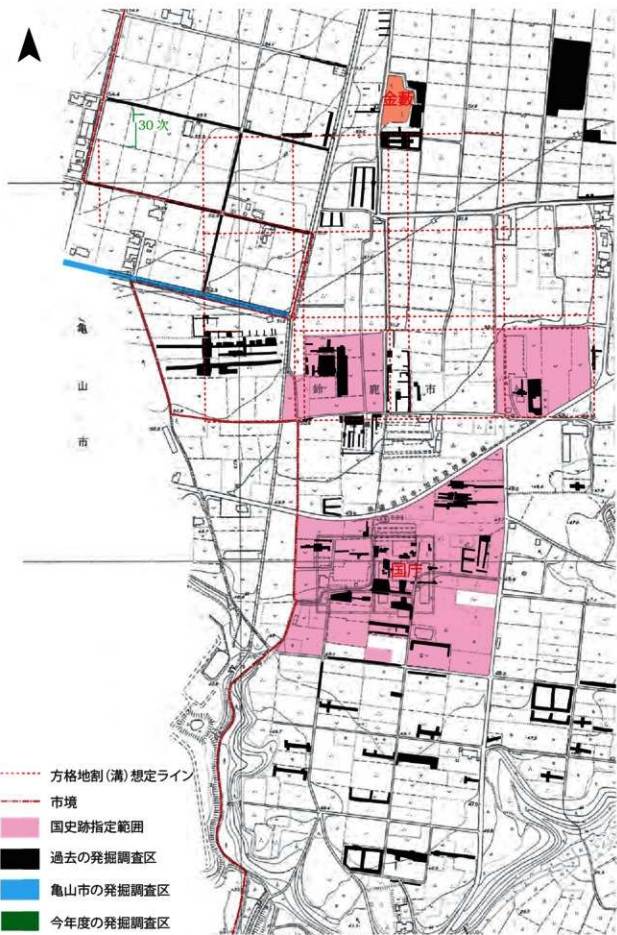


Fig.3 調査区位置図 1:5,000

Tab.1 調査履歴

| 回数    | 調査年度 | 調査区記号               | 所在地                           | 調査期間          | 面積 (㎡)   | 調査原因 | 概要                          |
|-------|------|---------------------|-------------------------------|---------------|----------|------|-----------------------------|
| プレ1次  | 1957 | A地点                 | 広瀬町字南野                        | 921110～930129 | 110      | 学術   | 礎石建物                        |
|       |      | B地点                 | 広瀬町字矢下                        |               |          |      | 基礎                          |
| 1次    | 1992 | 長塚1                 | 広瀬町字長塚1247,1248               | 921110～930129 | 110      | 学術   | 渡敷き遺構                       |
|       |      | 南野1                 | 広瀬町字南野971                     |               |          |      | 礎石建物                        |
|       |      | 荒子1                 | 広瀬町字荒子981                     |               |          |      | 瓦溜・溝                        |
| 2次    | 1993 | 6AHI-F,<br>6AJA-Aほか | 広瀬町字仲起1226・矢下<br>1134ほか       | 931129～940228 | 238      | 学術   | 政庁後殿・東儀棟・軒部・<br>東内溝・東外溝・西外溝 |
| 3次    | 1994 | 6AJA-Jほか            | 広瀬町字矢下1131～<br>1133           | 941006～941227 | 750      | 学術   | 政庁正殿・西脇殿・西軒廊<br>・西内溝・西外溝    |
| 3.2次  | 1994 | 根調査区                | 広瀬町字中上屋, 亀山市能<br>俣野町字中上屋      | 940601～940817 | 2,700    | 根緊急  | 溝                           |
| 4次    | 1995 | 6AJA-Aほか            | 広瀬町字矢下・荒子・仲起                  | 950920～951219 | 254      | 学術   | 政庁後殿・北外溝・西内溝<br>・西儀棟        |
| 4.2次  | 1995 | 根調査区                | 広瀬町字中上屋, 亀山市能<br>俣野町字中上屋      | 950605～950713 | 1,600    | 根緊急  | 溝                           |
| 5次    | 1996 |                     | 広瀬町字丸内                        | 960620～960716 | 133      | 市緊急  | 惣六住居・溝                      |
| 6次    | 1996 |                     | 広瀬町字矢下                        | 960625～960719 | 288      | 市緊急  | 溝                           |
| 7次    | 1996 | 6AGE-A              | 広瀬町字南野972,972<br>1,972,2,973  | 961007～970121 | 580      | 学術   | 掘立柱建物・礎石建物・溝                |
| 8次    | 1997 | 6AFB-A              | 広瀬町字長塚1279-2                  | 971016～980210 | 632      | 学術   | 倒壊瓦・礎石建物・溝                  |
| 9次    | 1997 | A地区                 | 広瀬町字矢下                        | 980223～980320 | 21       | 市緊急  | 政庁南辺部                       |
|       |      | B地区                 | 広瀬町字矢下                        |               |          |      | 政庁西脇殿                       |
|       |      | C地区                 | 広瀬町字仲起                        |               |          |      | 溝                           |
| 10次   | 1998 | 6AFB-B              | 広瀬町字長塚1279<br>3,1279-5        | 980901～981228 | 1,014.2  | 学術   | 礎石建物・溝・土坑                   |
| 11次   | 1999 | 6AJA-Hほか            | 広瀬町字矢下1176ほか                  | 990901～000131 | 863      | 学術   | 溝・礎石建物・南門                   |
| 12次   | 2000 | 6AHI-CEほか           | 広瀬町字中起・荒子                     | 001001～010311 | 1,142.8  | 学術   | 掘立柱建物・惣六住居・溝                |
| 13次   | 2001 | 6AHD-ABほか           | 広瀬町字中起1237,1240-1<br>～3,1241  | 010920～020214 | 714.2    | 学術   | 溝・土坑                        |
| 14次   | 2001 | 6AEC-AB             | 広瀬町字中上屋1282-1                 | 020106～020111 | 246      | 市緊急  | 礎石建物・溝                      |
| 15次   | 2002 | 6AJJ-Dほか            | 広瀬町字矢下1154ほか                  | 020424～020812 | 1,184.1  | 学術   | 溝・土坑・古墳・土曜墓                 |
| 16次   | 2002 | 6AFJ-Bほか            | 広瀬町字矢下・西富田町字<br>起・矢卸          | 020620～020925 | 3,463.4  | 市緊急  | 溝・掘立柱建物・土器箱庭<br>・古墳遺溝・方形埋溝墓 |
| 17次   | 2002 | 6ADB-A～E            | 広瀬町字西野3300                    | 020806～021130 | 4,640    | 市緊急  | 掘立柱建物・溝・惣六住居                |
| 18.1次 | 2003 | 6AIC-F              | 広瀬町字矢下1126                    | 030417～030630 | 243      | 学術   | 溝                           |
|       |      | 6AJD-E              | 広瀬町字矢下1144                    | 030421～030630 | 267      |      | 溝                           |
|       |      | 6ALE-A              | 西富田町字矢卸1015-<br>17            | 030528～030630 | 21       |      | なし                          |
|       |      | 6ALE-B              | 西富田町字矢卸1015-<br>17            | 030528～030630 | 11       |      | なし                          |
|       |      | 6ALC-G              | 西富田町字矢卸1015-<br>15-16         | 030528～030630 | 48       |      | なし                          |
| 18.2次 | 2003 | 6AEA-A              | 広瀬町字中上屋1283-2                 | 030902～       | 360      | 学術   | 溝・土坑                        |
|       |      | 6AAD-A              | 広瀬町字丸内2609-1                  | 040831～041118 | 220      |      | 溝                           |
|       |      | 6AFA-A              | 広瀬町字中上屋1290-1                 | 040913～041118 | 200      |      | なし                          |
|       |      | 6ABB-A              | 広瀬町字長塚1275                    | 040928～041118 | 550      |      | 惣六住居                        |
| 20次   | 2005 | 6AAD-B              | 広瀬町字丸内2606<br>1,2607-1,2608-1 | 050822～051130 | 2,000    | 学術   | 溝                           |
|       |      | 6AGF-A              | 広瀬町南野945-6                    | 051011～051130 | 140      |      | 溝                           |
| 21次   | 2006 | 6ACB-A              | 広瀬町字西野3242                    | 060719～060908 | 500      | 学術   | 溝・土坑                        |
| 22次   | 2007 | 6A D C -A           | 広瀬町字西野3311                    | 071001～071206 | 326      | 学術   | 風倒木・ビット                     |
| 23次   | 2007 | -                   | 亀山市                           |               |          | 亀山市  | 溝                           |
| 24次   | 2008 | 6AEB-C              | 広瀬町字中上屋1282-2                 | 080616～080717 | 835      | 市緊急  | 溝・倒壊瓦多数                     |
| 25次   | 2008 | 6ACA-A-B            | 広瀬町字西野3243<br>番,3248番         | 081001～081226 | 690      | 学術   | 溝・渡敷き遺構                     |
| 26次   | 2008 | 6A D C -B           | 広瀬町字西野3313の一部                 | 081218～081226 | 55       | 学術   | 溝・土坑・風倒木                    |
| 27次   | 2009 | 6AFF-A              | 広瀬町字長塚1244番                   | 090817～091216 | 580      | 学術   | 溝(道路跡)・ビット・風倒<br>木          |
| 28次   | 2010 | 6ABA-B              | 広瀬町中上屋1305番1                  | 101101～110131 | 59       | 学術   | なし(風倒木のみ)                   |
| 29次   | 2011 | 6ABAC               | 広瀬町中上屋1299番1                  | 111201～120229 | 116      | 学術   | 溝                           |
| 30次   | 2012 | 6AAE-A              | 広瀬町字丸内2612番1                  | 121201～130228 | 81       | 学術   | なし                          |
|       |      |                     |                               | これまでの調査面積     | 26,331.7 |      |                             |

明らかとなった<sup>17</sup>。同センターで調査を担当した宇河雅之氏は、国庁域を含む南北6区画・東西5区画の方格地割を想定し、北端に位置する金敷を平城宮に対する松林苑に相当するものと考えた<sup>18</sup>。その後、宇河案の検証や国庁南面における「朱雀路」の探求が行われ、方格地割については南北3区画・東西4～5区画の範囲において該当する遺構が確認される一方、「朱雀路」の存在ははっきりとしなかった<sup>19</sup>。方格地割が国庁を取り込まないことがわかり、国庁と方格地割の関連が不明確であったが、方格地割の中軸線に相当する位置で発見された幅24mの南北大路<sup>20</sup>が金敷や国庁の中軸線と一致することから、3者の関連性が一層明らかになった。

金敷は長者伝説の舞台として知られ、『高津瀬村誌』には「金敷」の項に「古長者ノ亡ルヤ金ヲ此ニ埋メ置キ若シ廣瀬村（ヒヘイ）ニ陥ルノトキハ之ヲ掘レト」と記される<sup>21</sup>。こうした口碑の存在からか、金敷の発掘は古来忌避されており、昭和の初めに陸軍北伊勢飛行場が建設された際も金敷を避けて陸軍用地が定められた<sup>22</sup>。

## II 調査に至る経緯

近年においては方格地割の敷設範囲を追求するべく、特に北辺を中心に調査が進められてきた。平成22年度の第28次調査では金敷北方の南北中軸線上において調査が実施されたが、遺構や遺物の分布は全く確認できなかった<sup>23</sup>。

金敷付近では平成20年度の第25次調査においてその東隣が調査され、幅約4.5mの東西溝SD310が検出された<sup>24</sup>。溝SD310は第17次調査において検出された溝SD215<sup>25</sup>の西延長線上に位置するもので、不連続ではあるが同じ性格を有する溝であると思われる。さらに、平成23年度の第29次調査では金敷の西隣において調査区を設け、SD215やSD310の延長線上からSD328が検出された<sup>26</sup>。金敷及び「北限大溝」と仮称されるSD215・310・328が主たる国府関連遺構の北限であることは間違いのないと思われる。

以上のような近年の調査を踏まえ、今年度は南北3列の方格地割のうち、北1列の西限に想定される丸内南西地区の北辺を確認することとした。

## III 基本層序

基本層序は以下のとおりである。

I層 耕作土。主にII層を起源とする攪乱層。

II層 黒ボク土。

III層 II層とIV層との漸移層。

IV層 黄褐色砂質シルト層。いわゆる地山と呼ばれる基盤層。

今回の調査地は畑地で、柵板により200mmほど周囲より高くなっている。I層は、その際の客土と従前のI～III層が混雑したもので、II～III層は失われており、I層を600mm除去したIV層上面において遺構確認を行った。

## IV 調査の経過

現地調査には平成24年12月1日に着手し、平成25年2月28日に完了した。調査の経過は以下の調査日誌抄のとおりである。

[調査日誌抄]

12月3日 調査区設定。

12月10日 トレンチ1掘削。

12月19日 トレンチ2・3掘削。

12月20日 トレンチ4掘削。

1月15日 平面図作成。

2月21日 調査指導。

2月22日 埋め戻し。

## V 調査結果

調査対象地に幅1mのトレンチを設け、IV層上面において遺構検出を試みた。方格地割北1列に関わる東西溝の検出を目的としてトレンチ1を設定し、金敷東西における東西方向の溝SD215・312・315の延長線上にトレンチ2を設けた。遺構確認面は重機の爪跡が残るものの良好に遺存していたが、遺構・遺物ともに全く検出されなかった。

## VI まとめ

方格地割北1列西端の丸内南西地区に想定されていた区画は、平成7年に検出された南北方向の溝SD13によって想定されたものである。SD13は幅0.8m・深さ0.35mで、約2mに亘って検出された<sup>27</sup>。埋土からの遺物出土は知られていない。東隣の丸内南東地区北辺には溝SD2・11が、同じく西辺にはSD12が、同じく東辺にはSD1があり<sup>28</sup>、区画の存在は確実視される。

今回検出を試みた遺構はSD13と90度方向を遡え、SD2・11の西延長線上に位置するものである。結果は前項のとおりであり、少なくとも丸内南西地区の北辺を画する溝は不存在であると考えられる。方格地割を形成することが確実なSD1・2・11・12の横断面形が



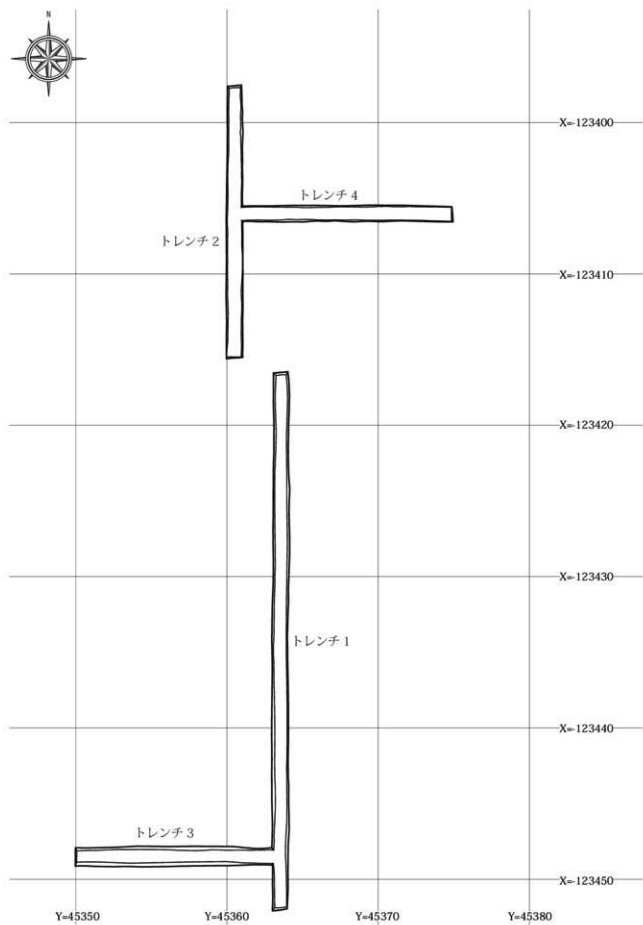
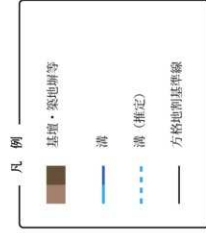
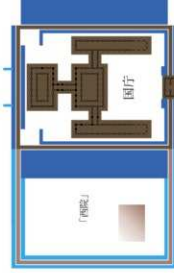
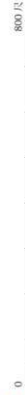
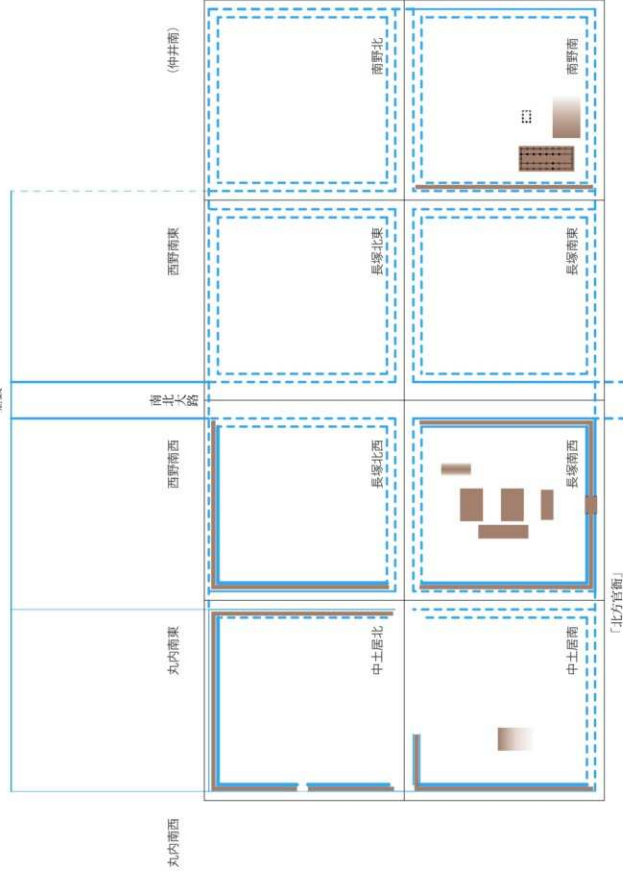


Fig.4 調査区平面図 1 : 250



Fig.5 方格地割北西部平面図 1 : 1,000



逆台形を示し、深さが0.52～0.65mであるのに対し、SD13は不整形な横断面形を有し、深さは0.35mであることから、他の溝と性格が異なる可能性がある。SD13はわずか2mほどの間で確認されたものであり、他の場所において同溝の連続を確認し、その特徴を把握する必要がある。丸内南西地区における区画の存在に関しては現在のところ次の三案が考えられる。

- ①北辺溝の施工を欠く区画である。
  - ②本来施工されていた北辺溝が後世失われた区画である。
  - ③西辺溝とされるSD13は方格地割と関係のない遺構である。
- ①②は区画の存在を肯定する案であるが、SD13の特徴が他の溝とは異なることから、時期や性格に違いがある可能性がある。②は今回の調査で遺構確認面が良好に残っていたことを考えると可能性としては低いものと

考えられる。③については陸軍北伊勢飛行場建設以前の中・近世を中心とする土地利用との関連を検討しなければならない。

国庁及び方格地割にかかる規格や施工順序については平成23年度の報告書で整理し、施工時期についての概略を示したところである<sup>19</sup>。それらを模式的に示せばFig.6のとおりとなり、現段階においてはFig.7のような変遷案を示すことができる。Ⅰ期は8世紀第Ⅱ四半期に遡りうる年代観が与えられており、金蔵と中軸を描る国庁の建設が始まる。Ⅱ期は8世紀第Ⅲ四半期と思われ、南北2区画・東西4区画の範囲に方格地割を伴う官衙が建設されるとともに、国庁の西に新たな院が増設される。Ⅲ期は8世紀第Ⅳ四半期以降と思われ、南2列の方格地割を基準として北1列の方格地割が形成される。

#### 【註】

- 註1 吉田1984。
- 註2 村山1992。南は国庁のある字矢下から北は金蔵付近まで。なお、水野1907では「金蔵」の表記が用いられている。
- 註3 林2006。大型四面圍立柱建物に切られる。8世紀代に機能していた駅路である可能性がある。
- 註4 藤岡・西村1957・13頁。のちに国庁が確認された矢下地区については「區域的性格を備えたもの」とし、金蔵を「代表的建物」と考えた。
- 註5 茂尾1993。
- 註6 新田1994。
- 註7 宇河1996。
- 註8 宇河1997・57頁。
- 註9 吉田2003。
- 註10 田部2010。
- 註11 水野1907・138頁。
- 註12 小河清角氏談。
- 註13 田部2011。
- 註14 田部2009。
- 註15 吉田2004。
- 註16 新田2012。
- 註17 宇河1996・16頁。
- 註18 宇河1996・36頁。
- 註19 新田2011や新田2012・7頁。

#### 【参考文献】

- 茂尾信1993『伊勢国分寺跡（5次）長者屋敷遺跡（1次）』鈴鹿市教育委員会  
 稲田孝司1973『古代都宮における地割の性格』『考古学研究』第19巻第4号  
 宇河雅之1996『長者屋敷遺跡』『長者屋敷遺跡・峯城跡・中富田西道遺跡』三

#### 三重県歴史文化財センター

- 宇河雅之1997『伊勢国府の方格地割』『研究紀要』第6号。三重県歴史文化財センター  
 大田勝宏1997『光仁・桓武朝の富宮一方格地割形成にみる富宮の変革』『古代文化』第49巻第11号。古代学協会  
 田部剛士2007『伊勢国府跡9』鈴鹿市考古博物館  
 田部剛士2009『伊勢国府跡11』鈴鹿市考古博物館  
 田部剛士2010『伊勢国府跡12』鈴鹿市考古博物館  
 田部剛士2011『伊勢国府跡13』鈴鹿市考古博物館  
 辻公則1996『国府政庁の規格性～近江国・伊勢国について～』『鈴鹿市歴史文化財年報』Ⅲ。鈴鹿市教育委員会  
 新田剛1994『伊勢国分寺・国府跡一長者屋敷遺跡ほか発掘調査事業報告』鈴鹿市教育委員会  
 新田剛2001『伊勢国府跡3』鈴鹿市教育委員会  
 新田剛2011『伊勢国府の成立』『古代文化』第63巻第3号（財団法人古代学協会）  
 新田剛2012『伊勢国府跡14』鈴鹿市考古博物館  
 林和雄2006『平田遺跡（5次）』『鈴鹿市考古博物館年報』第7号  
 藤岡謙二・西村隆男1957『歴史地理的にみた鈴鹿市廣瀬台地の初期歴史時代遺跡群—軍陣跡の問題と附近の開発をめぐって—』『史迹と美術』第279号  
 水野福松1907『高津瀬村誌』  
 水橋公忠2005『伊勢国府跡7』鈴鹿市考古博物館  
 村山邦彦1992『鈴鹿市広瀬長者屋敷遺跡の研究』『古代学研究』128号  
 山崎信二1994『平城宮・京と回廊の軒瓦および平城宮式軒瓦に関する基礎的研究』（1993年度文部省科学研究費一般研究C研究成果報告書）  
 吉田史郎1984『四日市地域の地質』地質研究所  
 吉田真由美2003『伊勢国府跡5』鈴鹿市教育委員会  
 吉田真由美2004『伊勢国府（17次）』『鈴鹿市考古博物館年報』第5号

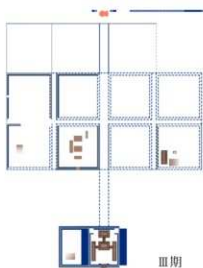
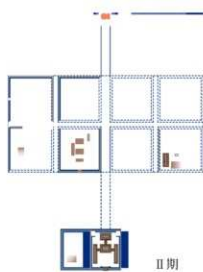


Fig.7 国庁及び関連施設の変遷



1 調査前全景 北東から



3 トレンチ 1 北から



2 トレンチ 1 南から



5 トレンチ 2 北から



4 トレンチ 1 北から



7 トレンチ 4 東から



6 トレンチ 3 西から

Tab.2

## 報告書抄録

|                            |  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
|----------------------------|--|-------|------|-------------------|--------------------|---------------------------------------|------|------|
| ふりがな                       | いせこくふあとじゅうご  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 書名                         | 伊勢国府跡 15   |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 副書名                        |  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| シリーズ名                      |  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| シリーズ番号                     |  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 編著者名                       | 新田 剛   |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 編集機関                       | 鈴鹿市 文化振興部 考古博物館  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 所在地                        | 〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224番地 TEL 059(374)1994  |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 発行年月日                      | 2013年3月31日   |       |      |                   |                    |                                       |      |      |
| 所収遺跡名                      | 所在地  | コード   |      | 北緯                | 東経                 | 発掘期間                                  | 調査面積 | 発掘原因 |
|                            |  | 市町村   | 遺跡番号 |                   |                    |                                       |      |      |
| 長者屋敷遺跡                     | 鈴鹿市広瀬町<br>字丸内<br>2612番1  | 24207 | 363  | 34°<br>53′<br>22″ | 136°<br>29′<br>36″ | 2012年<br>12月1日<br>～<br>2013年<br>2月28日 | 81㎡  | 学術調査 |
| 所収遺跡名                      | 種別   | 主な時代  | 主な遺構 | 主な遺物              |                    | 特記事項                                  |      |      |
| 長者屋敷遺跡<br>第30次<br>(6AAE-A) | 官衙   | 奈良・平安 | なし   | なし                |                    |                                       |      |      |
| 要約                         | 平成4年度から継続して行っている長者屋敷遺跡(史跡伊勢国府跡隣接地)の発掘調査である。遺跡北半において確認されている方格地割は東西4～5区画・南北3区画に互って存在するものと想定され、うち北1列と南2列とは敷設方法に違いがあると考えられている。北1列のうち一番西に想定される丸内南西地区は、平成6・7年度の調査で幅0.8mの南北溝が検出されたことにより想定される区画である。今回の調査ではこの区画の北辺に想定される溝の検出を試みたところ、全く検出されなかった。 |       |      |                   |                    |                                       |      |      |

## 伊勢国府跡 15

|       |  |
|-------|--|
| 発行日   | 2013年3月31日   |
| 編集・発行 | 鈴鹿市<br>鈴鹿市考古博物館<br>〒513-0013<br>三重県鈴鹿市国分町224番地<br>TEL 059(374)1994<br>FAX 059(374)0986<br>E-mail: kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp<br>URL: http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/ |
| 印刷    | 株式会社 三ツ星鈴鹿営業所  |

# Ise Kokuhu Site

Preliminary Report No.15

March, 2013

Suzuka Municipal Museum of Archaeology